

熊本商業高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校目標

県教育委員会関係課から出されている「平成30年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十則」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標

○健全な心身の育成

校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。

○学力の向上と進路指導の充実

確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。

○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり

特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。

○生徒を「伸ばす」教職員、生徒を「伸ばす」教育活動の実践

熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。

(スローガン)

「日本一の商業高校へ ～志高く、怒と信頼の人づくり～」

3 自己総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標・教育スローガンの達成	「志」を高く	進路目標の達成に向け基礎学力を養成する。	生徒が授業について、興味・関心を高められるような授業研究を推進する。また、学習成果を自己肯定観につなげる。	B	生徒個々の進路目標達成につながる学力を身に付けさせるため、指導や授業内容の充実を図ることができた。今後も、主体的・対話的で深い学びとなる授業実践のために、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業や研修会を実施していきたい。
		他を思いやる「怒」	生徒一人ひとりが安心して過ごすことのできる学校を実現する。	生徒情報の共有と共援を目指し、学年連絡会を開催する。また、ストレス対処教育を充実させる。	B	毎週行われる学年連絡会において生徒の情報を共有し、現状と課題の共通理解を図ることができた。職員が一丸となった教育活動につながっている。
		人と人をつなぐ「信頼」	学校行事や部活動をとおして、良好な人間関係を築く。	熊商デパートや部活動をとおして、責任を果たすこと。また、協力して課題を解決するすべを学ばせる。	A	学校行事や部活動が良好な人間関係づくりにつながっており、その成果も表れている。教育活動全体を通して、生徒同士の信頼関係構築を目指していきたい。
	商業教育の活性化	商業教育についての魅力発信	中学生や保護者に対し、進路実現をとおして商業教育の魅力を発信する。	中学校説明会や体験入学をとおして説明するとともに、ホームページやマスメディアを積極的に活用することで理解を深める。	A	熊商デパートの来場者数は2日間で約12000人、体験入学については合計1213人の参加があり、商業教育の意義や学校の魅力を発信することができた。
		高度資格への挑戦	スペシャリストの養成を目指し、高度資格取得を推進する。	専門教科における指導力の向上を目指し、研修機会の提供。また、外部機関と連携することで専門性の深化を図る。	B	専門教科として魅力ある授業実践、授業力向上を目指した取り組みを行うことで、「全商検定3種目以上1級取得日本一」の目標を掲げ、205人を合格させることができた。
	学校改革	職員に働き方に対する認識を深めさせる。	各分掌間の連携強化を図るための会議を時間割に設定する。業績評価において、各職員が目標を設定し、昨年度比10%の超過勤務削減を目指す。	毎週行う学年連絡会の内容を月に一度行事調整にあてて。また、衛生管理委員会や管理職との面談をとおして指導・助言を行う。	B	週1回の学年連絡会において、現状と課題の共通理解を図ることで統一感が生まれ、職員間の連携を図ることができた。時間外勤務については、個人差はあるものの、昨年度比約13%削減している。
保護者・地域社会との連携	保護者への情報発信	保護者の健全育成のため、保護者との緊密な連携を図る。結果として、総会等の出席率70%以上を目指す。	HPの更新、報道機関への資料提供、校長室だより等を発行し、情報提供する。また、安心メールの有効活用を図る。	HPの更新、報道機関への資料提供、校長室だより等を発行し、情報提供する。また、安心メールの有効活用を図る。	A	今年度、安心メールの加入を更に呼び掛け、生徒が約85%、保護者が約81%の加入率となった。校長だよりは毎月発行し、HPについても更に見やすくなるようリニューアルを行った。
	防災型コミュニティスクールの取組を強化	生徒が自らの命を守り、災害時においても地域と連携して役割を果たすことのできる人材の育成を目指す。	避難訓練が緊急時に即したのものになっているかを検証する。また、コミュニティスクールにおいては、近隣校との連携を深め、避難所運営を考慮した内容に深化させる。	避難訓練が緊急時に即したのものになっているかを検証する。また、コミュニティスクールにおいては、近隣校との連携を深め、避難所運営を考慮した内容に深化させる。	A	うち1回は雨天のため、教室での避難経路確認となったが、避難訓練は概ね目的を達成することができた。砂取小学校の避難訓練に本校職員が2度見学に行き、今後の連携のための一歩を踏み出すことができた。

学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	B	学習時間調査を1学期及び2学期末考査の1週間前実施、終業式等で状況を説明した。考査前だけでなく毎日継続して学習に取り組ませるような課題に取り組ませる必要がある。また、手帳を活用し、学習時間の確保を行わせた。
		「黙学」の有効活用を図る。	8:35までに入室・着席し、1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせる。	適切な課題(新聞スクラップ、検定・小論文対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A	黙学の時間で、遅刻の減少や1日の学習意欲の向上、検定合格へつながる効果があったと考える。新聞記事については、生徒の興味関心を引き出す内容が取り入れられ、自らの問題意識の向上につながったと考える。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。	分かる授業確立のため、学期1回以上の研究授業体制を整備し、各教科年間3回以上の研究授業を実施。更に教科の垣根を超えた公開授業を実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。	A	公開授業週間や研究授業の実施で教科の枠を超えて、多くの授業を参観する職員もいた。さらに、学期に1回「20分座談会」を開催した。授業の工夫や改善、またはタブレット等を活用した授業の取組について自由に話し合い、職員間のコミュニケーションを図ると同時に授業改善のヒントを得られる貴重な時間となった。
		生徒に進路決定のその先の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人ひとりが社会における自己の役割を自覚し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像から逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	B	進路指導の核として計画的に実施している集団進路指導で、段階的に進路意識の向上を図っている。また学年や担任からも機会あるごとに進路につなげた話などもあり、自己の進路を考える良いきっかけとなっている。また、進路だよりや講話などで情報提供に努めている。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	学習をはじめとする諸活動の「意味」を、将来とのつながりで理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きていくのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人ひとりが人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。高大連携の中で大学見学等を実施し、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	B	昨年に引き続き2学年全体で高大連携を実施した。上級学校で商業の専門性がどのように生かせるのかを多くの生徒に示すことができ、生徒も関心を持って取り組んでいた。近年進学者の割合が全体の約6割で推移しており、学びの継続の重要性の理解度が深まってきた影響もあると考える。
		生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	生徒一人ひとりの進路決定までの過程を大切に、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国公立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人ひとりの「キャリア・ジレンマ」に丁寧に対応し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学課外、就職課外、公務員課外を実施する。	A	民間就職は好調な求人状況に加え、生徒も真面目に意欲的に活動に励み、内定率100%を達成した。公務員希望の生徒も精力的に取り組む、24名の生徒が合格を勝ち取っている。進学の方は国公立大16名をはじめ明治大・中央大・立教大・駒澤大等の有名私大にも合格者を出した。大学進学者全体は少し100名に達しなかったものの、概ね目標を達成することができた。進学・就職とも、資格取得への取り組みや効果的な課外の実施などがうまく機能していると考えられる。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。 個に応じた多様な指導支援に努める。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。 ・特別な配慮を要する生徒の確実な把握。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	B	・遅刻数は減少傾向にある。より徹底して五分行動を促していく。 ・情報モラルについて、生徒間のトラブルは増加している。継続して指導し、マナーについては、保護者と連携するため、保護者会でも積極的に発信が必要である。
		交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・交通ルールの遵守と自転車運転マナーの向上を図る。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。 ・危険箇所や苦情の多い地域等を周知させる。	C	二重ロックの徹底がまだ不十分である。交通安全を含め、継続して取り組む。交通指導をおこなったり、プリントを配付して通学危険箇所を重点的に指導するなどの取組を行うことができた。

	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切にする心」を育む指導プログラムの取組みを通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかに大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「恕」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	B	・学校全体で、生徒の状況等を共有することができている。迅速な対応により、未然にトラブルや改善について対応できている。 ・保護者との連携について、より充実していかなければならない。 ・関係職員による連絡会を行ったり、SCやSSWとの連携を図るなど、校内組織の構築を随時図ることができた。
		校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図り、挨拶運動を行う。	B	定着しつつあるが、挨拶運動等とリンクし、100%を目指して行っていきたい。
人権教育の推進	生徒も教師も「差別は許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	生徒人権委員会の活動を活性化させるとともに、人権・同和教育推進委員会の機能も活性化させ、学校総体で人権教育に取り組む。	・不合理な差別に気付き、指摘できる力を付ける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をゼロにする。	・啓発活動(朝の放送、生徒人権委員会、人権・同和教育推進委員会、メッセージボード、資料提供など)を継続的に行う。 ・特に職員の言葉かけのスキルを高める。	A	成果は、生徒人権委員会も職員の人権・同和教育推進委員会も昨年以上の活動ができたことである。課題は職員間の声かけスキルを高める取組(座談会など)が計画で終わったことである。
	人権教育を計画的に行うとともに、進路の保障に努める。	・3年間を通じた人権教育を展開する。 ・授業の創造(分かりやすい授業づくり)に各教科で取り組む。	・身近な人権課題への認識と過去の差別の現実深く学ぶ。 ・言語教育とコミュニケーションを中心とした、生徒が楽しく学ぶ環境をつくる。	・被差別当事者の想いに寄り添うことができるようにする。 ・研修会の開催・参加を図るとともに、資料提供による知識の更新や蓄積を図る。	B	成果は、人権LHRの企画立案の段階で各学年の意向をくみ、生徒に寄り添った内容を検討し実施できたことである。課題は、校外研修への参加率が3割弱に落ち込んだことである。
	命を大切にすることを育む取組み。	・啓発活動を積極的、継続的、自発的に行う。 ・企画から実施、検証までを生徒自らが行うことにより、「命」の大切さを感じる心を養う。	・生徒一人ひとりが主役となるような人権啓発活動をおこなう。 ・「命」を大切にすることは、人にだけでなくあらゆる動物の「命」を大切にするものであることに気づく。	人権委員会と放送部・書道部等との連携を深め活動を広げることで、自己存在感や自己有用感の醸成を図り、生徒の実践力を育てる。	A	成果は、6月に放送部と書道部、11月に書道部とのコラボ企画が実施でき、また10月の文化発表会で自己肯定感についても生徒への訴えかけの活動が継続的にできた。課題は、「命」にフォーカスした活動ができなかったことである。
いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にすることを育てる。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	B	学年連絡会やいじめ防止対策委員会等において情報共有ができ、また、職員間でも連携を図りながら迅速な対応ができている。今後更にSCや専門家の助言を頂きながら指導していきたい。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	B	生徒会や人権委員の生徒だけでなく、今年度は部活動の生徒とも協力し合い活発な活動ができた。今後も、人権教育・教育相談部と連携を図りながら、生徒の主体的な活動を支援していきたい。
	いじめだけではなく、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「恕」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、学年連絡会を通して周知することで、組織的な対応を図る。	B	学年連絡会をはじめ、各学年主任や養護教諭の協力のもと、情報の早期把握ができた。また、特別支援教育拡大チーム(委員会)も活用し、組織的対応についても前進している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携。	熊本地震を教訓に防災教育の充実と学校総体として取り組む。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。	・年2回の避難訓練の実施 ・防災マニュアルの更新 ・各教科の教育目標に防災教育を位置づけ、年間1時間程度の実施を目標とする。	A	2回の避難訓練は生徒・職員ともに充実した訓練となった。また、本校における学校防災マニュアル・避難所運営マニュアルを作成し、学校運営協議会において周知し、協力体制を構築できたことは大きな成果だった。備蓄品の購入計画や砂取小学校との避難訓練における職員の交流を実動に移すこともできた。

商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・課外等の補完的授業を通して、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。	A	研究授業だけでなく、簿記に関する職員研修を年間を通して計画的に行った。魅力ある授業実践、授業力向上の為、更に研究と修養を重ねていきたい。また、授業の充実をはじめ、課外等の補完的授業を行うことにより、生徒たちの学習意欲を喚起することができた。今後も全商検定3種目以上1級取得日本一の目標を掲げるとともに商業教育における基礎的・基本的な知識と技術を習得させていきたい。
	ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ公正に行う能力を育てる。	求められる3つの資質（人間関係能力・社会性・倫理観）を伸長する。	・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。	・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。	A	31回目を迎えた「熊商デパート」では生徒が主体的に期間中の催し物や展示にも力を入れ、集客力増加に尽力した。また昨年度に引き続き、授業で開発したオリジナル商品の販売にも取り組んだ。業者折衝や接客マナー等の体験的学習を通してビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図ることができた。情報モラルについても情報処理、ビジネス基礎の授業を中心として、日々生徒に理解させることができた。
	ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。	ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。	ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。	・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成員としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。	A	「課題研究」では、ケーススタディや商品開発、プレゼンテーション等の活動を通して、言語活動に必要な表現力や積極性を身に付けることができた。また「電子商取引」では昨年度に引き続き、楽天IT学校に参加し、熊本地震からの復興を模索する活動に取り組んだ。全国発表を通して、ICT活用技術の向上と、主体的にビジネスの諸活動を実践できる生徒の育成に繋げることができた。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- 社会的に「働き方改革」が求められているので、先生方の超過勤務を減らすことができるように努めていただきたい。
- 「熊商デパート」という大きなイベントが全校生徒・職員の心をひとつにして力を発揮している。
- 商業教育活性化をととした様々な体験が学校教育活動全体の活力につながっていると思う。
- 生徒アンケート結果で、「校訓・教育目標の実践」「母校への誇りや愛着」への評価が低い生徒がいることが気になった。

【学習指導】

- ICTの効果的な活用など、授業を変革して内容を充実させていただきたい。
- 生徒の学習意欲向上のため、先生方が様々な努力をされているのがわかった。
- 専門的な学習については、大きな目標を持って取り組んでいる生徒が多いと感じる。
- 生徒間の学力差が激しいような気がする。底上げを図っていただきたい。
- やはり、予習・復習が不可欠だと思う。家庭学習時間の確保が望まれる。

【キャリア教育】

- 進学と就職希望者がそれぞれかなりの人数となるので、指導が大変だと思います。
- 以前とは違い、進学者が6割を占めておられると聞き、勉強を頑張っている様子が見られる。
- 生徒たちの希望を細かに受け止め、先生方がそれを大切にしながら進路指導をされている。
- 就職内定率100%は、これまでの先輩方が築いてこられた信頼も大きいのではないかと。
- 生徒一人ひとりの進路実現の支援を行い、確実に目標を達成されていると思いました。

【生徒指導】

- 愛校心を育てる教育として、「挨拶」はとても大切。いつ伺ってもしっかりとできている。感心させられ、気持ちよくなる。
- 生徒たちの素直なところを信じて、細かな心の動きを見逃さない取り組みを望みます。
- 学校内での指導は大変行き届いているが、校外でのマナー等がまだまだ十分ではない。
- 交通マナーの改善に期待する。

【人権教育の推進】

- 人は知らず知らずのうちに人を傷つけてしまっている。継続的に啓発を行うことで気付かされることも多いと思う。
- SNSでのトラブルに気を付けていただきたい。
- 人権教育は全ての授業の中で、その要素を含んでおり、先生方の意識が最も重要だと思う。
- 外部講師を呼んでの講演会等、様々な取り組みをされていると思う。

【いじめの防止等】

- 生徒会での取り組み等をもう少し具体的に周知されるとよいと思う。
- 先生方が連携を密にして取り組んでおられるのがよくわかった。
- いじめの芽を見逃さないためにも生徒たちが何でも話せる場づくりに取り組んでほしい。
- いじめ問題は永遠の課題である。繰り返し生徒たちへの指導をしていくしかない。

【地域連携】

- 隣の砂取小学校や警察、消防等、情報交換が大切であると思う。
- 熊本地震を経験したことで、防災に対する取り組みを強固なものとしていかねばならない。
- 砂取校区は地域力も高く、住民も親しみやすい。砂取小学校との先生方の連携を意識されている。
- 防災教育における連携は、1つの課題であると思う。

【商業】

- 上級資格取得が評価の目安となっている。全国一を期待しています。
- 十分な結果を残せていると思います。
- 検定日本一という目標に生徒たちの意欲が高まっていることがすばらしい。
- 生徒の主体性を重んじながら「やる気」を伸ばす熊商デパートの取り組みがすべての活動の源となっていると思う。
- 「資格取得」「熊商デパート」「課題研究発表」は本校の一番の強みであり、外部にアピールできる場所だと思う。
- 今年は税理士試験合格も1名いて、高いレベルの生徒も多くなっているが、中間層の底上げを図ってほしい。「何か一つでも1級を合格する」など、全員がそうなるように目指したい。

5 総合評価

学校経営、学習指導(商業教育)、生徒指導、キャリア教育、人権教育(いじめ防止)など総合的には、昨年度の評価に比べ向上している。しかしながら、生徒・保護者・教職員からのアンケートから次のような問題点が浮き彫りとなった。

【生徒からの回答】

- 定期考査前以外は、65.6%の生徒が自発的な学習ができていない。
- 宿題だけで精一杯、勉強の仕方がわからないと回答する生徒が多い。
- 家庭学習をする時間的余裕がない。

【保護者からの回答】

- 本校の教育に対する満足度は高いものの、生徒と比較すると若干ではあるが低く推移している。
- 学校からの配布物が保護者に届いていない割合が32.3%であった。
- 学校ホームページを十分閲覧していない割合が52.6%であった。

【教職員からの回答】

- 三者の中では、同一項目における評価が一番厳しくなっている。
 - 学習指導においてICTや思考力を高めるような学習指導に着手しているが、まだまだ定着していない。
 - 情報モラルの向上を目指して指導しているにもかかわらず、その成果が現れていない。SNS等でのトラブルも後を絶たない。
- 保護者への啓発についても併せて進めていきたい。

このようなアンケート結果について、更に分析を行い、生徒・保護者からの満足度を高めていく。また、明らかになった課題を解決していくための方策を具体的に検討していく。

6 次年度への課題・改善策

【学習指導】

○学習指導力の向上

- ・研究授業・公開授業をこれまでも行ってきたが、他教科からの参加者が少ない。
 - ・ICTや思考力や表現力を育むような授業を目指し、有志による研修会も実施したが、まだ定着していない。
- 校内授業研修を効果的に計画し、他教科からの積極的な参加を促す。また、他校における公開授業に積極的に参加させるとともに、近隣中学校との連携を模索する。
- ・生徒による授業評価を充実させ、その評価をもとに授業改善を図る。

【生徒指導】

- ・SNS等によるトラブルを未然に防ぐために、更に人権意識の高揚を目指す。
 - ・生徒自らの将来を思い描き、自らの課題を解決できるキャリア教育を実践する。
- 情報モラルの向上については、全体・クラス・個別指導など教職員や外部講師を招いて指導してきた。商業系の授業の中にも位置づけて計画的に指導している。また、キャリア教育においては授業のみならず、学校行事等で生徒が積極的に参加できる場面を設定し、自己肯定感を高める。

【その他】

- ・教職員が生徒に向かい合う時間の確保と時間外勤務時間の削減
- 職員アンケートからは生徒に向かい合う時間が不足しているとの意見が寄せられている。学校行事の精選や各分掌ごとの連携を強めるため、時間割の中に会議の時間を位置づける。また、時間外勤務の実態把握に努め、削減へ向けた工夫を引き続き行っていく。